



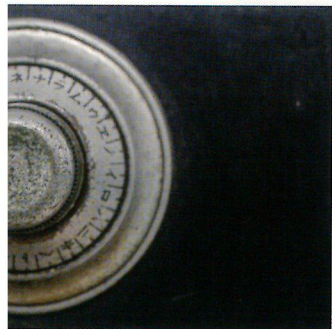
【上・左から】

金庫 英国ミルネル社製 19世紀（熊本旧相良藩使用金庫）

耐火金庫 竹内金庫製 昭和初期

77号防東金庫 熊平製作所製 昭和22年

78号防盜金庫 熊平製作所製 昭和28年



竹内金庫製 俯仰錠イロハタイプ



おのみち歴史博物館は、大正十一年に尾道銀行として建てられた尾道金融史上で大切な建物です。改装された現在でも、受付カウンターや床面に当時の名残を見ることが出来ます。また、展示室内の大金庫は、昭和三十年代に設置されたもので、広島県内に現存する数少ない金庫の一つです。今回の企画展は、おのみち歴史博物館の前身であった銀行にまつわるテーマにして関連資料を展示します。尾道ゆかりの江戸時代の藩札から、明治初期の銀行券、さらには、十九世紀イギリス製の金庫などを中心に展示します。

# お金の金庫の物語

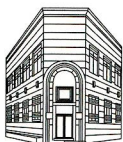
平成31年3月30日[土]—5月26日[日]

休館日／火曜日(4月30日は開館、5月8日[水]は振替休館) 入館料／一般200円(20名以上の団体160円) 共通500円(おのみち映画資料館も観覧できます)

※中学生以下無料 ※障がい者とその介護者各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

企画展協力：株式会社熊平製作所

尾道港開港 850 年  
心たのしも尾道  
COCORONOMICHI



## おのみち歴史博物館

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目14-1 Tel./Fax. (0848) 37-6555



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

尾道は古くから栄えた港町。

人と物が往来することで、金融関係の業種も発展してきました。

明治時代、西洋の金融システムを導入しました。

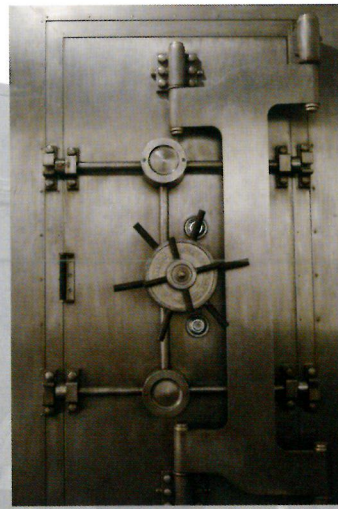
紙幣制度がはじまり銀行券が発行されるようになります。

おのみち歴史博物館は、銀行だった建物を活用しています。

その歴史は古く、もともとは大正12年に建てられた旧尾道銀行でした。

館内で一際目立つ大金庫は、昭和33年に設置された広島銀行時代のものです。

昭和2年当時の行内



おのみち歴史博物館の大金庫扉 昭和33年製

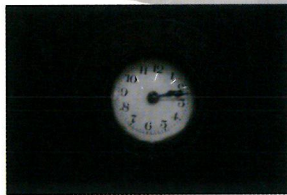
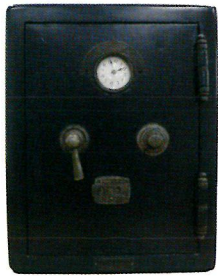
このたびの企画展は、銀行に関連する資料を紹介します。

江戸時代の紙幣・藩札から明治初期の銀行券、船金庫、

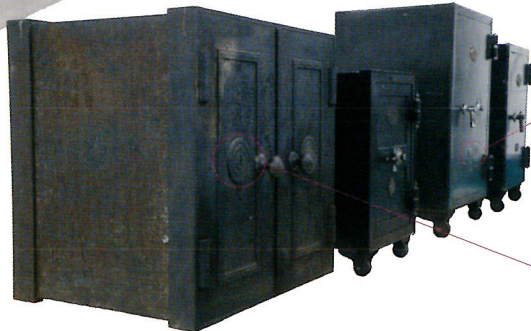
江戸時代後期の西洋金庫、明治以降から昭和時代の金庫などを展覧します。



【左から】新国立銀行券1円 新国立銀行券5円 明治通宝10銭



時計付き卓上金庫 大正時代



77号防盜金庫 昭和28年製の鍵穴



英国ミルネル社製金庫の鍵穴

昔はよく見られていた鋼鉄製の金庫。役場や商店、さらには学校にもありました。

紙幣や金融証券はもとより、重要書類から大事な品物まで、盗難等を防ぐ大切な役割を担っていたのです。

今、現金決済は電子化され、電子世界の中で動いています。

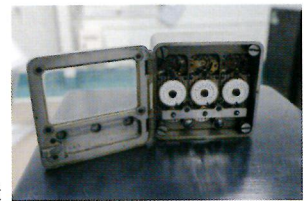
私たち個人の生活でもキャッシュレス化が進み、

カードやスマートフォンで簡単に済む時代において、

金庫はただの鉄の塊となってしまいました。

お金と金庫の物語は、過去の歴史となっていくのでしょうか？

現代の時間錠の内部構造



参考資料

東日本大震災で被災し破壊された金庫のダイヤルを展示します。



交通案内

徒歩：JR尾道駅から15分

バス：JR尾道駅から東方面行きバスで「長江口」で下車徒歩3分。

※お車でお越しの方は、駐車場がありませんので、近隣の有料駐車場をご利用ください



おのみち歴史博物館

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目14-1 Tel./Fax. (0848) 37-6555

心たのしも尾道  
COCORONOMICHI

尾道港開港 850年